

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校・ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	連携カリキュラムの実践 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 教材の交流 児童・生徒の交流	連携カリキュラムの検証と改善 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 児童・生徒の交流	連携カリキュラムの総括 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 3校合同研修の開催 合同授業研の開催 3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加。 児童・生徒の交流
確かな学力の育成	子ども 自分の意見を持ち、表現できる	- 研究授業・公開授業や研修会の開催。 - 自主研修会の開催。 - 授業の基本型（大池スタンダード）の実践と検証。 - I C T機器を有効的に活用。 - 校内の「ノートの達人」の充実。 - 週に1度、読書活動の時間の確保。 - 基礎学力の定着するための時間の確保。 - 自主学習への取り組み	- 研究授業・公開授業や研修会の開催。 - 自主研修会の開催。 - 授業の基本型（大池スタンダード）の実践と検証。 - I C T機器を有効的に活用。 - 週に1度、読書活動の時間の確保。 - 各取組みの検証・次年度への改善。 - 自主学習への取り組み - 基礎学力の定着するための時間の確保。	- 研究授業・公開授業や研修会の開催。 - 自主研修会の開催。 - 授業の基本型（大池スタンダード）の実践と検証。 - I C T機器を有効的に活用。 - 週に1度、読書活動の時間の確保。 - 各取組みの検証・次年度への改善。 - 自主学習への取り組み - 基礎学力の定着するための時間の確保。
豊かな人間性を育む	う子ども 心豊かにお互いをみとめあ	- 道徳科の授業作りの研修、評価に向けての検討 - アンケート実施。 - アンケートをもとに人権教育の重点目標の設定。 - 児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 - 図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 - 外部講師を招いて体験学習の実施。	- 道徳の授業実践の交流や研修会の実施。 - 児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 - 図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 - 外部講師を招いて体験学習の実施。	- 道徳の授業実践の交流や研修会の実施。 - 児童会によるあいさつ運動・仲良し交流会の実施。 - 図書ボランティアによる読み聞かせの実施。 - 外部講師を招いて体験学習の実施。 - 課題の共通認識を図る。
健康・体力の増進	もの育成 自分の身体を知り、運動に進んで親しむ子ども	- 全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 - 講師を招聘し、校内研修を行う。 - 茨木っ子運動Ⅱの検証。 - 校内研究授業の実施。 - スポーツタイムの場の設定。 - 備品等の充実といった環境の整備を図る。 - 給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 - 日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 - 体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。	- 全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 - 講師を招聘し、校内研修を行う。 - 新学習指導要領のポイントについて学ぶ。 - 校内研究授業の実施。 - スポーツタイムの場の設定。 - 備品等を充実させ環境の整備を図る。 - 給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 - 日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 - 体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。	- 全学年で体力テストの実施及び結果分析を行い、各学年の課題の共通認識を図る。 - 講師を招聘し、校内研修を行う。 - 新学習指導要領に応じた研究授業の実施。 - スポーツタイムの場の設定。 - 備品等を充実させ環境の整備を図る。 - 給食の月間目標、食育の全体計画の作成。 - 日めくりカレンダーを用いた給食指導の実施。 - 体力テストの結果を用いた生活面や健康面の見直し、指導。
支援教育の充実				

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
良好な結果であった
- ②書くこと
概ね良好な結果であった
- ③読むこと
概ね良好な結果であった
- ④言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式
概ね良好な結果であった
- ②短答式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問
漢字の書きとり
- ・もともと正答率の低かった設問
手紙の構成を理解し、後付けを書く
- ・もともと無解答率の高かった設問
漢字の書きとり
- ・もともと無解答率の低かった設問
目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くなど

国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
良好な結果であった
- ②書くこと
概ね良好な結果であった
- ③読むこと
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式
良好な結果であった
- ②短答式
大変良好な結果であった
- ③記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問
目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える
- ・もともと正答率の低かった設問
自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える
- ・もともと無解答率の高かった設問
物語を読み、具体的な斜述を基に理由を明確にし、自分の考えをまとめる
- ・もともと無解答率の低かった設問
目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える。

分析

国語 A・B とともに概ね良好な結果であった。

国語 A では、特にことわざの意味理解や、文章の内容理解について良好な結果であった。手紙の構成や、俳句の情景を捉えたりすることに課題の残る結果となった。

国語 B では、文章全体の構成理解や、話し手の内容理解などは、良好な結果であったが、目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くことに課題が残った。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もともと正答率の高かった設問

具体的な問題場面において、乗法で表すことのできる二つの数量関係の理解

・もともと正答率の低かった設問

商を分数で表すことができる

・もともと無解答率の高かった設問

商を分数で表すことができる

・もともと無解答率の低かった設問な

四則計算・図形の性質など

算数B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もともと正答率の高かった設問

示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現できる

・もともと正答率の低かった設問

身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉・式を用いて表すことができる。

・もともと無解答率の高かった設問

二つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉と数を用いて表すことができる。

・もともと無解答率の低かった設問な

飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる。

分析

算数 A については、良好な結果であった。

基本的な計算や、規則・性質を使った問題はできている。しかし、商を分数で表すところが課題が残る結果となった。

算数 B については、概ね良好な結果であった。

記述式の問題形式は良好な結果であった。特に、式の中の数の意味や、自分が判断した理由を言葉や、式を用いて記述することができていた。しかし、二つの数量関係のきまりをみつけ一般化することの正答率が高かったが無解答率も高かった。

算数 B に関して、特に図形領域が良好な結果であった。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・正答率について、全国を上回っているが、ここ数年例年並みの傾向であったが、今回は若干の減少傾向にあった。
- ・算数の発展的な問題に関して、ほぼ例年並みの傾向にあった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力高位層は、上昇傾向にある。
- ・学力低位層は、ここ数年、減少傾向だったがゆるやかな上昇傾向に変化した。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

全学年、研究授業か公開授業のどちらかに取り組むことで、授業の流れや発問の仕方について研究を深めていく。一年を通して同じ講師の先生に指導していただき、職員の共通理解を図る。

各学年の学習のきまりを継続していき、1～6年生までの学習環境を統一し基本姿勢を定着していく。

発表の仕方、話の聞き方を教室掲示し、安心して話せる学級環境づくりを行う。

算数科に重点をおき、ノートのきまりを精査し児童が学習したことを振り返ってわかるようなノートを目指す。

算数科の四則計算など基礎的な内容の問題を週に一度朝の学習や毎時間の始めの短時間で取組む。

児童が自分の考えをかけるよう、導入の工夫や考える時間の確保ができるような授業を実践し研究していく。

授業の最後に振り返りとして一時間で学んだことなどを自分なりにかく取組みを継続して行う。また、児童が振り返りをかきやすいように「今日の学習でわかったこと」・「友だちの考えでよかったこと」・「今日の学習でおもしろかったこと、もっとやってみたいこと」の3つの視点を定め、三色で色分けを行っている。

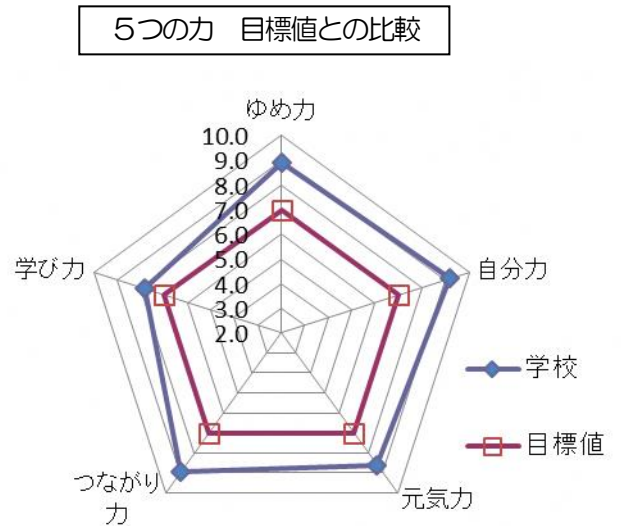
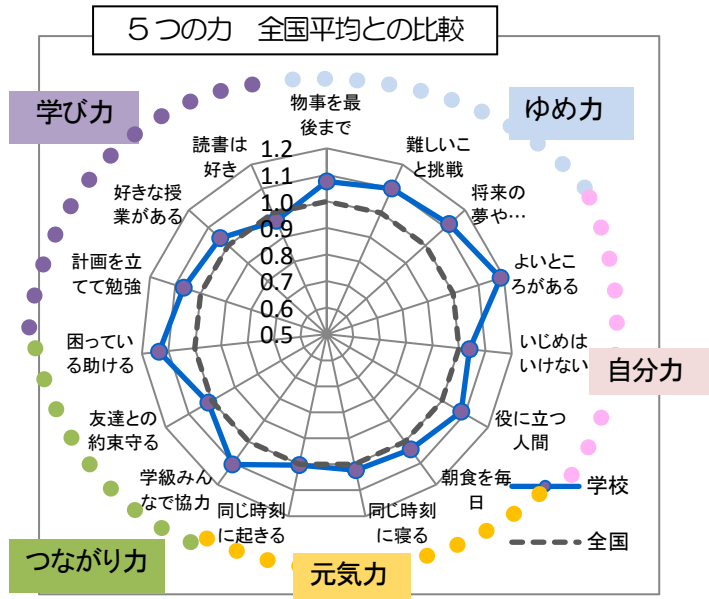
各教室に「ノート掲示コーナー」を設置し、ノートづくりの意識を持たせる。

校内の掲示板に「ノートの達人」というコーナーをつくり、各学年1名、ノートづくりがよくできている児童のノートをはる。1～6年生まで掲示することで系統だてたノートの取組みや児童の意識の向上を図っていく。

国語の授業の中で音読に取り組む。音読の方法も一通りではなく、一人読み、ペア読み・グループ読みなどの音読形態に取り組むことで、音読する力をつける。

学習への習慣をつけるため、高学年からの自主学習に取り組む。

○●子どもたちに育みたい力●○



分析

<ゆめ力>

- ・将来の夢や目標をもったり、難しいことに挑戦する児童が多い。

<自分力>

- ・どの項目も全国よりも上回っている。とくに、自分にはよいところがある児童がとて多く、自己肯定感が高い。

<元気力>

- ・朝食を毎日食べている児童が全国より高く、基本的な生活習慣が身についている。

<つながり力>

- ・困っている友だちを助けたり、学級でみんなで協力する児童が多い。

<学び力>

- ・自分で計画を立てて学習したり、好きな教科がある児童が多い。
- ・読書を好きな児童が全国よりも低い。

すべての力において目標値を上回っている。

取組み

現在、週に一度行っている朝の時間の一斉読書を継続する。また、児童会活動での図書委員会による、読書週間、読み聞かせ、本の紹介等を継続して行っていく。

また、全校児童が本と関われる取組みを考えていく。学校図書館支援員と連携し、本に親しみやすい環境を整え、授業の中で読書活動を行っていく。

例えば、毎月図書室に、月々のテーマ（季節やその月の行事など）や各教科に関連した内容のテーマを設定し、書籍の紹介や掲示をする。低学年から高学年まで本の読み聞かせを行い、その後に各学年に適した書籍の紹介もする。

その他では、地域ボランティアの方と連携して、本に触れる機会を多くつくっていく。

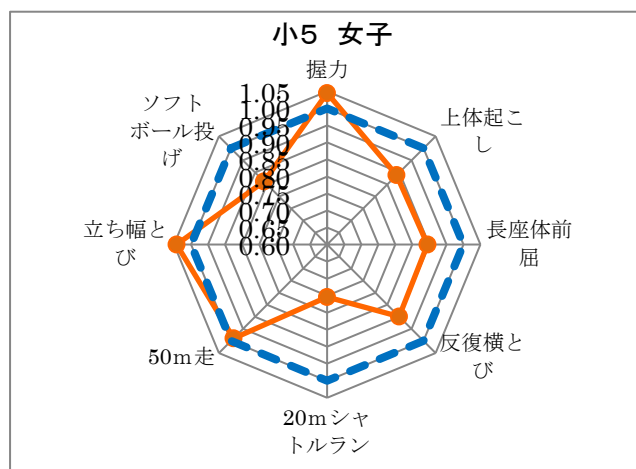
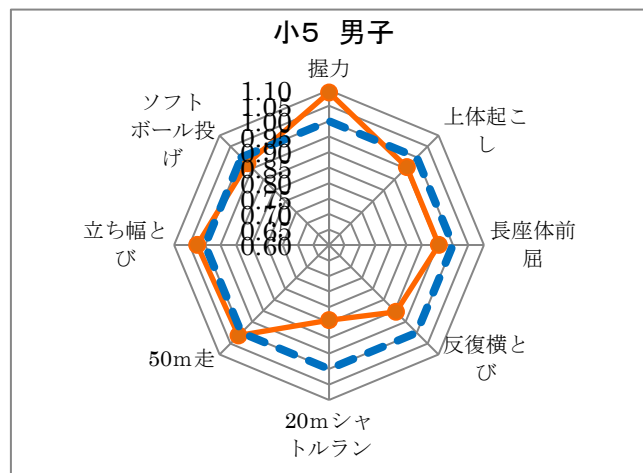
児童にとって魅力ある授業作りの実践を行う。そのために授業力向上のための研修会等を行う。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

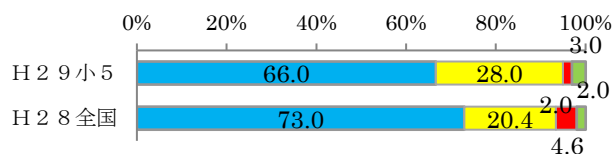
〇●体力●〇

男子 (小5)

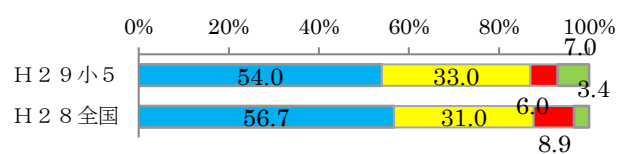
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き ■ やや好き ■ やや嫌い ■ きらい

分析

- ・ 4年生は男女とも長座を除く全てについて全国平均を上回った。
- ・ 5年生は立ち幅跳び、50m走が全国平均を上回った。
- ・ 6年生は男子が全てにおいて全国平均を大きく上回った。女子は50m走を除く全てにおいて上回った。
- ・ 4年生の20mシャトルランは前年度に課題があったが、運動プログラムを継続して実施したことにより結果が伸びている。
- ・ ソフトボール投げでは、4、5、6年生全て昨年度より結果が良くなっている。女子においては引き続き指導を充実していくことが必要である。
- ・ 4、6年生の児童アンケートは、運動・スポーツにおいて好意的な児童が増加している。5年生は伸長は見られるが、全国平均に比べ下回っている。
- ・ 各学年の結果を踏まえ、実態にあった取り組み、体育学習を進めることで児童の体力を伸ばしていく必要がある。

取組み

- ・ 全学年スポーツテスト実施。
- ・ 体育のあゆみ作成。
- ・ なわとびカード、マラソンカードを校内で統一したものを使用。
- ・ 校内研修の実施。
- ・ 運動プログラムの実施。
- ・ 校外でのスポーツ大会への参加。
- ・ 体育学習でのふりかえりカードの活用。
- ・ 茨木っ子運動Ⅱの検証。
- ・ 体育施設、備品、学習具の整備充実。
- ・ 年間指導計画作成。
- ・ 校内研究授業の実施、講師を招いての全体討議会。
- ・ 市の体力向上プロジェクト公開授業、研究討議会への参加。